

# 波佐見中学校学校便り

第11号  
編集・発行  
波佐見中学校  
校長 池本敦司

## 焼き上がりが楽しみ

### 一年生絵付け体験 10月畑の原で焼成

7月8日(月)の総合的な学習の時間で一年生が近隣の焼き物の商社を訪問し、現在の波佐見焼のデザインや傾向について話を伺ったり、見学したりして学び、それを生かしたデザインをそれぞれが構想しマグカップと皿に絵付け

を行いました。波佐見町観光ボランティアの皆さんや、陶器組合の皆さんに御協力いただき、多くの作品が完成しました。

時間をかけて丁寧に塗るこむ生徒、ダイナミックに筆を走らせる生徒、それぞれの個性があふれる作品が出来上がりました。10月に行う畑の原での焼成活動では、この日に絵付けした作品を窯入れします。焼き上がりがどのようになるのか。今から楽しみです。

なお、PTAの文化教養部が焼成活動の時に一緒に入れる作品を作ることができます。体験を開いています。案内のチラシを先日配付しています



集中して絵付けに取り組んでいます  
7月8日波佐見中学校

ので興味のある方はぜひご参加ください。詳しくはPTA文化教養部にお問い合わせください。

## 生徒総会 自治の難しさを学ぶ



提案する生徒会役員 = 7月5日ウェイブホール

7月5日(金)ウェイブホールで生徒総会を行いました。前半は、令和5年度活動報告、

決算報告、令和6年度活動計画、予算案、そして生徒会スローガン「和綺挨拶(わきあいあい)」などを順調に提案、承認していただきました。

生徒会役員たちが時間をかけてしっかりと準備を行っており、会はとてもスムーズに進行しました。

一通り提案事項が承認され、自分たちで波佐見中学校のルー

ルを確認する時間になったとき、生徒会役員とフロアの生徒たちの間で、意見の応酬がありました。それは髪型について、「清潔感」をキーワードに生徒自身が「清潔感」をどうとらえ、どのような髪形がふさわしいかを議論する場面でした。活発にやり取りがされましたが、いくつか気になる質問や意見がありました。まず「〇〇はいいのかわか

ないのか」という質問です。これは言い換えると「〇〇したいのだけどその許可をください」「〇〇してはいけないと言っているけど清潔だったらいいのでは?」と言っているように聞こえました。生徒会役員は「その髪型で面接等に行けるかどうかで判断してください」と答弁していました。確かに「面接に自信を持って行ける」ことは大切な判断基準です。しかし面接に行く基

準よりも大切なのは「波佐見中学校」の生徒であるという判断基準です。自信を持って「波佐見中学校の生徒です」といえる基準はどういうものなのか、みんなでよく考えないといいけません。

「基準がわからないので具体例を示してほしい」という意見もありました。自分で考えるのが大変だからでしょうか? でも、これは「規則を厳しくして」と言っているのと同じですね。

## 校長日記

今年目標の一つに、月に一回は何かしら「文化的」な行事やイベントに参加するということを掲げている▼一月は「池上彰氏の講演会」に▼さらにも「展」二月は「林家たい平独演会」三月は福岡市美術館「ローマ展」などに足を運んだ▼四月、校長になってから時間が合わないわけではないが、月一回は既にクリアできていない。量が問題なのではなく質が問題と自分に言い聞かせている▼昨年度から先生方は「夏休み充電宣言」ということで夏休みに自分を高める研究や修養の時間をとってほしいことになって

いる▼普段の生活から離れた場所や空間に身を置くことで整理されることや新たな発想も生まれる。「時間は生み出すもの」夏休みはできるだけ時間を作って私自身も充電しようと思つた。